

今月に入り、新型コロナウイルスの問題など
心配なニュースが毎日報道されています。

皆さんの学校が卒業まで無事に乗り切れることを願っております。

速報

◆ 第32回日本語弁論大会 盛会のうちに終了

最優秀賞・文部科学大臣賞は 盧 詠文さん (外語ビジネス専門学校)

外務大臣賞は BHATTASOMA さん (湖東カレッジ) が受賞!!

2月10日、全国から14名の精鋭が大阪YMCA国際文化センターに集まり、練習してきたスピーチを思いを込めて発表、そして競い合いました。



←開始直前
緊張した様子の発表者たち

最優秀賞に輝いたのは「強くなれる理由」と題して話した外語ビジネス専門学校の 盧 詠文さん（香港）でした。日本留学にかける思いを熱く語りました。

「強くなれる理由」(要旨)

私は今、大好きなマンガ「NaNa」の舞台、多摩川が流れるあこがれの町に住んでいます。小学生の時ドラマの主人公に恋をして、中学1年で留学を決意しました。ところが父が病気で体が不自由になり、私は弟の進学のため社会人に。留学は遠い夢となりました。

2018年、奨学金を譲るという弟の好意に私は再び夢を手にし、2019年、念願の日本に降り立ちました。一度閉じられた扉でもチャンスはまた巡ってくる、そのチャンスを掴むための12年だったと今実感しています。

来日して私は香港人の自覚と皆の自国への誇りに初めて気づきました。そして香港の混乱に胸を痛める私に周りの人が優しい言葉を掛けてくれ、自分にできることを精一杯やろう、皆のおかげで私は強くなれると感じました。



4月から専門学校で貿易ビジネスを勉強します。香港に再び世界中の人が来てくれるよう、平和へ向けて一步一步進んでいきます。香港人としての誇りを胸にここ日本で。



盧 詠文さんには、協会からの最優秀賞に加え今年度から新設された「文部科学大臣賞」の賞状が文化庁の松井孝浩 先生から手渡され、会場は大きい拍手に包まれました。

外務大臣賞は「国際的な問題解決への提案や国際交流の発展などをテーマとしたスピーチでもっとも優秀なもの」に贈られる賞としてこちらも新設されました。その初代受賞者の栄冠に輝いたのは、専門学校湖東カレッジの BHATTA SOMA さん（ネパール）でした。「ネパールのごみ問題」と題したスピーチが、世界的なごみ問題、環境問題を私たちが真剣に考えるきっかけになる内容だったということで受賞となりました。

「ネパールのごみ問題」（要旨）

ネパールは自然の美しい国です。私は1年前ネパール政府の市役所で働いていました。ユニセフやジャイカの援助で、政府はゴミの問題と衛生についてのキャンペーンを行っていました。村や町をまわり、話をしたのですが、はじめは人が集まりませんでした。でも小学校などで話をすると、子どもが親に話して、少しずつごみが少なくなっていました。週に1回村や町の人が集まり、ごみ拾いをするようになりました。

ネパールには、まだビンやカンや紙のリサイクルをする設備がありません。ごみを分別しリサイクルできる工場を私の国でも造りたいです。ごみのない衛生的な町を造り、世界中からもっとたくさんの観光客に来てもらいネパールの自然を楽しんでもらいたいです。

スウェーデンのグレタ・トゥンベリさんは地球温暖化の影響を世界中の人々に訴えています。私も環境のためにがんばりたいと思っています。



今回の入賞者の皆さんです。

最優秀賞

文部科学大臣賞

「強くなれる理由」 外語ビジネス専門学校 盧 詠文 (香港)

外務大臣賞

「ネパールのごみ問題」

専門学校 湖東カレッジ BHATTA SOMA (ネパール)

優秀賞

「人と違う選択はあるが間違った選択はない」

大阪 YWCA 専門学校 JUNG SOJIN (韓国)

「言葉の橋を築くには」

大阪 YMCA 国際専門学校 麥 炳淳 (マカオ)

「日本人から学んだ理想の愛」

ECC 国際外語専門学校 文 周元 (韓国)

審査員特別賞

「自分の気持ちが大事」

大阪バイオメディカル専門学校 鍾 子謙 (香港)

「私は自分の国のことが嫌いだ」

文化外国語専門学校 VALERIE AURELIA (インドネシア)



盧詠文さん BHATTA SOMAさん 麥炳淳さん 鍾子謙さん



VALERIE AURELIAさん 文周元さん JUNG SOJINさん

惜しくも入賞に手が届かなかった発表者も準備してきたスピーチを最後までしっかり語り切り、どれも甲乙つけがたい素晴らしいものでした。

「アニメは私のパラダイス」

メディカルエステ専門学校 HOANG THI THU HUONG (ベトナム)

「居心地のいいところから抜け出して、一步前へ」

福岡外語専門学校 ZHENG KAIXIANG (中国)

「“愚者”の前進」 清風情報工科学院 金 清武 (中国)

「会うは別れの始め」 関西外語専門学校 劉 沛 (中国)

「違う涙」 神戸YMCA学院専門学校 KYAW THET SOE (ミャンマー)

「幸せのありがたみ」 横浜デザイン学院 罗 余 (中国)

「アラサーの価値観」 エール学園 黄 璐 (中国)



今回の大会の審査をお願いしたのは以下の先生方でした。より多角的な視点でスピーチを評価していただこうと昨年度から審査員を5名にし、日本語教育関係者以外の方も加わっていただいております。

- ・浅野 淳博 先生
関西学院大学 神学部 教授
- ・熊野 七絵 先生
公益社団法人 日本語教育学会 常任理事
独立行政法人 国際交流基金 関西国際センター 日本語教育専門員 主任
- ・田中 美加 先生
株式会社凡人社 取締役
- ・蔦 清行 先生
大阪大学 日本語文化教育センター 准教授
- ・松井 孝浩 先生
文化庁 国語課 日本語教育専門職



浅野淳博先生、熊野七絵先生、田中美加先生

大阪大学の 蔦 清行 先生には全体の講評をお願いいたしました。「皆さん大変よく努力、準備をしてきたことがよくわかる弁論大会だった」と大会のレベルの高さを評価くださいました。また、「その分、点数をつけるのに審査員は大変苦勞しました」と審査に時間がかかった訳を話され、以下の審査基準についても丁寧に説明くださいました。



講評に立つ蔦清行先生

<審査基準>

技能面：文法、語彙、発音、アクセント・イントネーションなどの韻律的特徴の正確さ

内容面：構成、わかりやすさ、主張があるか、主張を支える事実や例が効果的か

話し方：話す態度、速度、声の大きさ、自然さ、間

全体印象：スピーチ全体を通して感じた印象、聞き手にうまく訴えたか、独自性を感じたか

大会終了後、「スピーチの指導をするにあたり、事前に審査基準を提示してもらえばより良い指導ができるのではないか」というご意見を頂戴しました。来年度からは、上記の基準を早い段階でお知らせするようにいたします。

関西学院大学の 浅野 淳博 先生からは「日本語を身につけ、日本文化を理解しようと頑張る皆さんは、きっと将来日本と母国の相互理解のために尽力なさるに違いない。ぜひ頑張ってください」と発表者だけでなく会場にいる皆さんにエールを送ってくださいました。

凡人社の 田中 美加 先生からは「まず、目のつけどころがおもしろい。そして日本での経験を今の生活に生かしていることに感心した。なるほどな〜と私のほうが勉強したスピーチ大会だった」と実感を込めてお話になりました。

国際交流基金関西国際センターの 熊野 七絵 先生は、「自分の経験の中で感じたこと、考えたこと、訴えたいことが具体的なエピソードを交えて語られていた。それぞれの発表者が表現や構成、話し方を選び、そこに個性が現れていたと思う。留学生であることを忘れてスピーチに引き込まれた」と感想をお話しになりました。



熊野七絵先生

文化庁の松井 孝浩 先生からは「発表者にしか話せないことを一人一人が丁寧に話してくれた。皆さんの心のこもったスピーチを聞いて元気をもらった。ありがとう」と笑顔で皆さんにお礼の言葉を話されたのが印象的でした。



また、司会の PHAM VAN HOANG さん【写真左】と 郝云秀さん【写真右】（清風情報工科学院）が落ち着いた話し方で発表者の緊張を和らげ、素晴らしい間とテンポでスムーズな進行に大きく貢献してくれたこともここに加えさせていただきます。

今回の弁論大会を実施するにあたっては 平岡 憲人 理事（清風情報工科学院）が実行委員長として指揮を執ってください、委員として 浦上 昌弘 先生（清風情報工科学院）、鈴木 えみ 先生（大阪 YMCA 国際専門学校）、安田 雅之 先生（関西外語専門学校）、崎村 真 先生（エール学園）、藤田 実余子 先生（大阪 YWCA 専門学校）をはじめ、多くの方々のご尽力くださいました。

つつがなく会が終えられたこと、事務局として、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。本当にいい大会となりました。



開会の挨拶をする平岡憲人理事

来年は東京大会。今から楽しみです。オリンピックに負けてられません！



2020年2月14日
全国専門学校日本語教育協会
ニュースレター担当